

第九次総合計画における地域のまちづくりのあり方について

1. 地域のまちづくりの変遷

総合計画	第七次総合計画	第八次総合計画・前期	第八次総合計画・後期
計画期間	平成 1 7 年度～ 平成 2 6 年度	平成 2 7 年度～ 平成 3 1 年度	令和 2 年度～ 令和 6 年度
基本理念	住みよいまちは 行きよいまち	「協働」「創造」「自立」	
都市像	やさしさと活力に あふれるまち「飛騨高山」	人・自然・文化がおりなす 活力とやさしさのあるまち 飛騨高山	
地域等の 設定単位	9 地域 合併旧町村単位	なし	2 0 地区・地域 まちづくり協議会単位
考え方	合併後の新市の一体感の 醸成を図るとともに、地 域固有の資源、特性を活 かした個性あるまちづく りを推進	合併後 1 0 年の経過を踏 まえ未設定。平成 2 7 年 度から本格的に協働のまち づくりを推進	まちづくり協議会単位の 各地区・地域の方向性を 新たに設定し、地域のま ちづくりを位置付け
主な取組	地域審議会、地域振興特 別予算	まちづくり協議会への支 援ほか	まちづくり協議会への支 援ほか

2. 地域のまちづくりの成果と課題

(1) 成果

地域固有の資源や特性を活かした個性あるまちづくりが着実に進展した。

まちづくりに対する市民意識の醸成が図られた。また、多様な主体と市との協働によるまちづくりが着実に進展した。

(2) 課題

現行総合計画（地域のまちづくり）では、個別地域の方向性等について示しているが、個別地域の枠を超えた地域（エリア）の方向性等については、十分でない状況にある。

第九次総合計画においては、広域的な視点による地域のまちづくりについて検討する必要がある。

3. 地域のまちづくりに対する提言等

(1) 議会提言

①第九次総合計画に対する提言（令和5年12月）

<創造的縮充（重層的な地域構造の想定）>

- ・創造的縮充の実現に当たっては、より効果的かつ効率的にまちづくりを進めるための市域全体を俯瞰した新たな仕組みが必要なのではないか。
- ・都市基本計画で設定した基本構造の形成と維持は大前提だが、伝統文化や自然景観、農林業といった領域については、高山地域と9つの支所地域といった単位ではなく、基本的な都市構造上のレイヤーとして目的別の地区設定を重ねる必要があるものとする。

(2) 市民意見

①第九次総合計画策定に向けた市民意見交換会

<地域のまちづくりに対する主な意見>

- ・各地域（高山地域及び各支所地域）がどこに向かっているのか、目に見える形で示されていないように感じる。各地域それぞれの計画を組み立て、これらをまとめ上げた総合計画にしていだけたらと思う。
- ・地域のまちづくりの進め方については、市内全地域において統一的なものではなく、それぞれの地域に見合ったものであるべきとする。

4. 地域のまちづくりに係る論点整理

論点	現行計画の課題	議会提言	市民意見
要旨	総合計画に示している地域のまちづくりについて、広域的な視点により検討することが必要	市域全体を俯瞰した新たな仕組みが必要 高山地域と9支所地域といった単位ではなく、目的別の地区設定が必要	各地域の計画を組み立て、まとめた形の計画が必要 市内全地域統一的なものではなく、各地域に見合った計画が必要
	↓	↓	↓
対応の方向性	現行地域の枠を超えた広域的な地域（エリア）	都市基本計画を踏まえた目的別の地域（エリア）	まちづくりに関する地域（エリア）別の方向性

5. 地域のまちづくりの検討

地域のまちづくりの案（複数のパターン）について、論点整理で示した対応の方向性に基づき、比較検討する。別紙1

6. 対応方針

(1) 基本的な考え方

より効果的かつ効率的な地域のまちづくりを推進するため、各地域（高山地域及び各支所地域）が培ってきたそれぞれの強み（特徴等）を活かした形で、地域間（地域同士）の連携強化を図り、地域（エリア）一体となってすすめるまちづくりの方向性を示すこととし、これを第九次総合計画における地域のまちづくりとして位置付ける。

(2) 検討にあたっての視点

①広域化・相互補完

- ・複数地域が広域化することで、スケールメリットが期待されること。また、強みを活かして弱みを補うといった相互補完による効果が期待されること

②歴史的・地理的な繋がり

- ・複数地域が河川流域や道路網、公共施設立地等の歴史的・地理的な繋がりを活かすことで、さらなる効率化が期待されること

③政策間の連携

- ・複数の政策が相互に関係することで、地域（エリア）全体として各種政策の相乗効果が期待されること

(3) 具体的検討

地域のまちづくりの具体案を作成の上、検討をすすめる。別紙2

7. 今後の予定

令和6年4月以降 地域のまちづくりの具体的検討
基本計画素案への反映

パターン			パターンA 現行の地域	パターンB 地域間の連携強化、一体化	パターンC 地域の再編(ブロック化)
				※イメージ 	※イメージ
			現行(旧市町村単位の地域)による地域のまちづくり	現行地域の枠を超えた地域間の連携強化、一体化(様々な地域間連携パターン)による地域のまちづくり 例)産業や自然環境、歴史文化など地域の特徴等を踏まえ、地域間の連携強化を図り、地域一体となつてすすめるまちづくりの方向性を明示	現行地域の再編(ブロック化)による地域のまちづくり 例)現行地域を再編し、新たな地域を明示(現行10地域→4地域に再編など)
対応の方向性	現行計画の課題	広域的な地域(エリア)	× 現行のままであり、エリアの広域化の視点に乏しい	○ 旧市町村エリアの枠を超えた広域的なエリアを明示できる	○ 旧市町村のエリアを再編(ブロック化)するため、広域的なエリアを明示できる
	議会提言	目的別の地域(エリア)	× 現行のままであり、目的別のエリアの視点に乏しい	○ 目的別のエリアの明示が可能である	× 一律に現行地域を再編(ブロック化)するため、目的別のエリアの視点に乏しい
	市民意見	地域(エリア)別の方向性	○ 現行のエリア単位での方向性の明示が可能である	○ 目的別のエリア単位での方向性の明示が可能である	○ 再編(ブロック化)されたエリア単位での方向性の明示が可能である
検討結果			× 課題がある	○ 適当である	× 課題がある
主な課題等			広域化の視点や目的別の視点に乏しく、依然として旧市町村の枠組みの考え方を脱していない	全市一定以上(あるいは一律)のサービス水準が求められる政策等にはなじまない	目的別のエリアの視点に乏しいことに加え、再編(ブロック化)による地域の組み合わせが極めて難しい 支所の再編など、地域の集約化の方向性をイメージさせる

地域の特徴等を活かしたまちづくり ※地域の組み合わせ(広域化)や関係する政策分野(目的別)について、今後具体的に検討

キーワード等の例	中部山岳国立公園など、国内有数の山岳資源を活かしたまちづくり	ユネスコ無形文化遺産、日本遺産など、文化財資源を活かしたまちづくり	東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道など、高速道路沿線(延伸)の立地を活かしたまちづくり
地域(エリア)のイメージ			
主な現行地域	・丹生川地域 ・上宝・奥飛騨温泉郷地域	・高山地域 ・国府地域	・高山地域 ・丹生川地域 ・清見地域 ・庄川地域 ・上宝・奥飛騨温泉郷地域
地域(エリア)の特徴等	・国内有数の山岳資源、温泉資源エリア	・ユネスコ無形文化遺産、日本遺産構成エリア	・高速道路沿線(延伸)エリア
	【主な地域資源】 ・槍ヶ岳、乗鞍岳、穂高連峰など山岳資源、5つの温泉地、ロープウェイ、登山道、乗鞍スカイライン、五色ヶ原の森、飛騨大鍾乳洞、スキー場など	【主な地域資源】 ・高山祭屋台、古い町並、朝市、宮川、高山陣屋、伝統的建造物群保存地区、高山城跡、松倉城址、広瀬城址、古墳、国宝、国指定重要文化財など	【主な地域資源】 ・高速道路IC、白山ユネスコエコパーク、道の駅、清見造成地、自然体験施設、木工・クラフト、中核病院、トマト・ほうれんそう、飛騨牛、スキー場、バスターミナル、安房トンネルなど
	【主な都市連携軸】 ・中部縦貫自動車道 ・国道158号、国道471号	【主な都市連携軸】 ・JR高山本線 ・国道41号	【主な都市連携軸】 ・東海北陸自動車道 ・中部縦貫自動車道 ・国道158号、国道156号
既存の主な取組	・松本・高山ビッグブリッジ構想の推進 ・飛騨山脈ジオパーク構想の推進 ・奥飛騨温泉郷活性化構想の推進	・伝統的建造物群保存地区拡大調査 ・松倉城址、広瀬城址調査 ・高山城跡の活用検討	・企業立地の推進 ・都市計画区域の設定 ・中部縦貫自動車道の整備促進、同中間ICの整備促進